

令和4年度 部局経営目標（達成状況）

年度	令和4年度	作成日	令和5年3月31日								
部局名	勝山振興局	部局長名	河島 賢治								
(1) 部局の役割・使命（ミッション）・経営方針											
<p>1災害に強いまちづくり【No.11：住み続けられるまちづくりを】 市民の安全安心な暮らしを守るため関係機関・団体と連携を密にし、防災意識の向上と地域連携を図り、地域防災力の強化を図ります。</p> <p>2生涯を通じた健康づくりの推進【No.3：すべての人に健康と福祉を】 持続可能な健康長寿社会を実現するための基本となる健康づくりに、各団体等との連携を図りながら取り組みます。</p> <p>3市民と協働・連携したまちづくり【No.11：住み続けられるまちづくりを】 市民との協働、連携によるまちづくりを推進し、地域課題の解決や地域活性化に向けて自ら取り組む地域づくりを進め、持続可能な地域社会の実現を目指します。</p> <p>4地域の強みを活かした地域振興【No.11：住み続けられるまちづくりを】 歴史、文化、風土、景観など地域の強みを活かした市民主体の振興事業や、特産品を活用した商品開発などの地域内経済循環を推進し、豊かで自立した農山村の実現及び来訪者・関係人口の増加を目指します。</p> <p>5移住・定住の促進【No.11：住み続けられるまちづくりを】 移住者や関係人口獲得など、持続可能なまちづくりを目指す地域団体等の活動を支援します。</p> <p>6産み育てやすい環境づくり【No.3：すべての人に健康と福祉を】 安心して子育てができる環境を確保するため、ライフスタイルにあわせた支援をおこないます。</p> <p>7行政財産の有効活用【No.12：つくる責任つかう責任】 市民の共有財産である「行政財産・公共施設」について、一層の有効活用のため、社会情勢を把握しながら、管理運営形態や複合的な利用手法を検討します。積極的に実施します。</p>											
(2) 事業成果目標		指標名及び目標値									
<p>1-1地域防災力の向上に取り組みます。 ①活動活発な自主防災組織や消防団と連携し、また専門知識を有する防災士等の協力を得た公開訓練を実施し組織力の強化と未組織自治会の設立推進を図ります。 ②「私の避難プラン」の更新・継続等の取り組みにより、既設自主防災組織の現地対応力強化を図ります。 ③地域内小中学校防災訓練時等に出前講座を実施するなどし、防災意識の底上げに取り組みます。</p>		<p>指標：①自主防災組織組織率、②避難所開設・運営訓練回数、③出前講座回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標値</th> <th>実績値</th> <th>評価</th> <th>次年度への課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①80% (109/ 137自治会) ②2回 (2組 組織) ③1回 (1校)</td> <td>① 73.7% (101/ 137自治会) ②1回 (1組 組織) ③2回 (2校)</td> <td>① 2自治会へ設立に向け、説明等行ったが、コロナ感染症影響で内部協議が進まず設立に至りませんでした。 ② 1組織（11自治会・112名参加）で複数避難所設立の公開訓練を実施し、組織力向上に努めました。 ③ 地域内小中学校2校200名を対象に防災出前講座を実施しました。</td> <td>①未組織の自治会については危険度の低い地域や高齢化と人口減少で組織化が困難な自治会であり、人口減少による自助共助の限界が見受けられます。 ②③訓練や出前講座未実施の組織へ実施を継続して働きかけが必要です。</td> </tr> </tbody> </table>		目標値	実績値	評価	次年度への課題	①80% (109/ 137自治会) ②2回 (2組 組織) ③1回 (1校)	① 73.7% (101/ 137自治会) ②1回 (1組 組織) ③2回 (2校)	① 2自治会へ設立に向け、説明等行ったが、コロナ感染症影響で内部協議が進まず設立に至りませんでした。 ② 1組織（11自治会・112名参加）で複数避難所設立の公開訓練を実施し、組織力向上に努めました。 ③ 地域内小中学校2校200名を対象に防災出前講座を実施しました。	①未組織の自治会については危険度の低い地域や高齢化と人口減少で組織化が困難な自治会であり、人口減少による自助共助の限界が見受けられます。 ②③訓練や出前講座未実施の組織へ実施を継続して働きかけが必要です。
目標値	実績値	評価	次年度への課題								
①80% (109/ 137自治会) ②2回 (2組 組織) ③1回 (1校)	① 73.7% (101/ 137自治会) ②1回 (1組 組織) ③2回 (2校)	① 2自治会へ設立に向け、説明等行ったが、コロナ感染症影響で内部協議が進まず設立に至りませんでした。 ② 1組織（11自治会・112名参加）で複数避難所設立の公開訓練を実施し、組織力向上に努めました。 ③ 地域内小中学校2校200名を対象に防災出前講座を実施しました。	①未組織の自治会については危険度の低い地域や高齢化と人口減少で組織化が困難な自治会であり、人口減少による自助共助の限界が見受けられます。 ②③訓練や出前講座未実施の組織へ実施を継続して働きかけが必要です。								

2-1健康長寿の地域づくりのために高齢者の居場所づくりを推進します。 ・振興局がもつ地域との関わりからきめ細かな情報を包括支援センターや社会福祉協議会と共有し、高齢者の生きがい活動や介護予防・健康増進の場の小さな拠点、「集いの場」の立ち上げを支援していきます。	指標:集いの場新規開設数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	3カ所	3カ所	「集いの場」を3カ所新設すると共に、その内容も既存の「ふれあいいきいきサロン」2カ所を「ささえあいデイサービス」に移行できました。	高齢化の進展が続いており、「集いの場」の立ち上げ支援の継続が必要です。
3-2地域の困りごとを解決する機能を集約した“小さな拠点づくり”を推進します。 ①少子高齢化が著しい地区住民のこれまでの取組を尊重しつつ、発展と拠点機能の向上を支援します。 ②富原地区のこれまでの取組が未来づくりセンターや地域自治振興拠点につながるよう、世代交代の支援を行い、取組が始まった若者世代の組織の活動を支援していきます。(2-1,3-1を統合)	指標:②組織に関わる人数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	10人	8人	春の駅舎活用イベントや夏の異文化交流企画、秋の駅舎装飾など、地域内向けに交流の機会を設けることができました。	さらに地域内での輪を広げ、地域内で求心力ある活動ができるかが課題。世代を超えた対話の場づくりの促しが必要です。
4-1勝山地域振興計画に基づき、観光地域づくりを推進していきます。 ①持続可能なまちづくりのため、今後の町並み景観保全について重要伝統的建造物群保存地区選定申出を視野に入れつつ、文化の香りを醸し出す空間づくりをさらに進めるため、住民意識の再醸成を図るワークショップ・勉強会を開催します。 ②近隣(県内)地区の視察を実施するなどし、保存地区への理解を深め、中央図書館も含めた庁内関係各課で情報共有し、検討を深めていきます。 ③滞在時間の延長や観光消費額の増加につなげるため、神庭の滝や町並み保存地区での体験コンテンツ(プログラム)開発を進めます。	指標:①参加延べ人数③体験コンテンツの造成			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	①参加延べ人数 200人 ③2プログラム	①延べ 228人 ③0	①②これまでの緩やかな景観保全意識から、対話を経て将来への具体的な行動へ向かう意識醸成が掘り下げられました。津山市城東地区の視察、景観の歴史を生涯学習課、中央図書館と協働し情報収集を行うなど連携しています。 ③神庭の滝自然公園の指定管理が推進できたことで、次年度以降の勝山地域の観光ポイントを繋げ滞在時間延長に向けたコンテンツ造りの環境が整いました。	①ワークショップで描いたイメージに近づくための一歩が住民意識の発露として歩み出せるかが課題です。体験コンテンツのプログラムは、関係者と協働し継続しているので、新たな地域プレイヤーとしての人材発掘と、意欲向上を促す環境づくりが、新たな展開を生じるものと思われれます。

5-1新しい風を取り込むための移住・定住施策を推進するとともに、持続可能なまちづくりを目指す地域団体等の活動を支援します。 ①持続可能なまちづくりの根幹である、地域で暮らし続ける人を呼び込むため、地域づくり委員会へ空き家登録に至るまでの具体的情報を提供することで、空き家情報バンクの積極的な活用とそれを支える地域人材掘り起こしを促し、地域人口の人口減少率の抑制を目指します。 ②地域資源を活用した賑わい創出の取り組みを支援していきます。(こんにやく、お茶、薬草など)	指標: 空き家情報バンクへの登録追加			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	①3軒	0軒	①地域づくり委員会向けに、空き家活用、片付けの勉強会を行った。民間による情報提供が進んでおり空き家情報バンク利用へつながったかまでは不明です。 ②こんにやくを使ったご当地バーガーのテスト販売ができました。	空き家対策情報を提供する委員・自治会長は役員交代があるため、継続的な空き家対策活動に結びつけていくことは困難です。地域住民一丸となった課題認識とグループや団体の発生を促すためにも空き家対策情報の継続提供が必要です。
6-1安心して子どもを産み育てる環境作りを推進します。 ①出産後できるだけ早期に訪問することで、育児に関する母親の不安や困りなどを早期にキャッチし必要な支援ができるようにしていきます。 ②母親が孤立せずに子育てができるよう、地域での子育て応援の一環として、既存の子育てサロンをサポートするとともに、「つどいの広場」の必要性を周知し、「つどいの広場」支援の人材探しを行います。	指標: 地域や団体を超え子育て相談に対応可能な人材			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	①人材確保1人	①人材確保6人	「勝山つどいの広場 やまっこ」のスタッフとして、人材を確保することができました。	「つどいの広場」の開設と併せて、参加者同士の交流促進及び今年度確保した人材の育成が必要です。
7-1観光施設、スポーツ施設及び文化施設について、管理運営方針の組織的な見直しと施設を使い切るための方策を検討します。 ①神庭の滝については、令和4年度で指定管理者を募集し、令和5年度指定管理者の施設管理移行を目指します。郷土資料館及び武家屋敷館については、指定管理者制度への移行を見通して検討し、新たな施設管理者を模索します。 ②勝山運動公園、勝山スポーツセンターの指定管理施設としてのあり方検討を進めます。	指標: ①新たな指定管理者 ②指定管理施設の検討			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	①1組織 ②2施設	①1組織 ②2施設	①指定管理者が真庭観光局に決定し、令和5年度からの指定管理移行に向け準備が整いました。 ②勝山運動公園・勝山スポーツセンター施設について、今後の運用管理を含めてスポーツ振興課と協議を継続しています。	①町並み保存地区内に存在する郷土資料館及び武家屋敷館は町並み散策者減少とともに入館者が減少しました。町並み保存地区の面的観光資源の再生と魅力向上のあり方の検討が課題です。 ②施設の管理と運用は、真庭市スポーツ振興計画と密接であり、また勝山SCについては施設建設当初からの勝山高等学校との関係で丁寧な調整が必要です。